

TOKYO働き方改革宣言

今までの働き方は、利益至上主義で成果を重視したため労働時間に関する意識が少なかった。改めて業務効率を見直し、労働時間の量を減らし、その分、モチベーションの上昇した質で補うことで売り上げを伸ばしていく。

令和2年1月16日
株式会社BaseLiving

目標

働き方の改善

一人当たりの月の時間外労働を、45時間を超えないよう徹底する。

休み方の改善

法定年次有給休暇の平均取得率50%をまずは目指す。中長期的には、計画年休制度などを用いて、100%を目指していく。

取組内容

働き方の改善

業務のすべてを細分化し、その中での無駄を一つ一つ拾い上げながら効率化を図っていく。システムで代替できるような、ルーティンワークに関してはシステムの導入も検討する。残業を減らすことが、労働者の健康回復、モチベーション向上につながり、短時間で集中して成果を出すような体制を整える。

休み方の改善

まずは業務内容の徹底的な見直しを行う。こちら、システムの導入や、無駄な作業の省略、簡略化などにより、休日出勤が生じないことを進めていく。さらに、パートや、代替労働力の活用、配置計画の再考などを行い、皆が年次有給休暇を躊躇なく取得できるような職場づくりを進めていく。